



KIFA Plaza

第13号

1992年3月10日発行

〈発行〉

鎌ヶ谷市国際交流協会

編集・広報部会

活動
報告

第4回 KIFA パーティー

特別企画	新しい風	2・3面
写真特集	ハートで語り合おう (KIFA パーティー)	4・5面
活動報告	KIFA パーティーに出席して	6・7面
あReこRe	報告、連絡、その他	8面



完成間もない総合福祉保健センターで

より一層 **華やか**に行われた

第4回 KIFA パーティー

新しい風

世界ジャンボリー大会に参加して

第四中学校 3年 鳥羽 良

僕は、8月6日～19日まで韓国へ行って来ました。

韓国に行った理由は、ボーイスカウトで14回世界ジャンボリーという4年に1回の世界大会があるので、その大会に参加する為に、日本代表として行って来ました。

今回のこの大会でいろいろな事を学ぶことができ、大変勉強になりました。

まず、第一に、国際交流についてです。

この大会には、世界各国から60数カ国、3万2千人の人達が1つに集まりました。

僕の周りには、知らない人、知らない国、そして知らない言葉を喋る人達ばかりでした。

僕の他にも24人の日本人が行きましたが、すべての人が同じ不安感に襲われたと思います。

開会式の夜、僕ら日本の隣には、韓国の女の子達が座っていました。その子は僕に話しかけて来てくれました。

僕の不安が彼女の一言ですぐなくなりました。僕と彼女はすぐに仲良くなりました。彼女の友達とも仲良くなりました。僕は、ほんの2～3時間で多くの友人ができたと思いました。僕と彼女らは、もちろん自分の国の言葉では会話は通じません。すべて英語でした。

僕の英語は、単語をつづけただけの、学校のテストでは、点が取れない程、メチャクチャでしたが、彼女らは僕の話す事を一生懸命に理解しようとしてくれました。

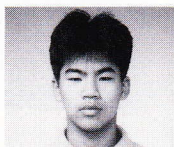
この時、国際交流というのは、自分の気持ちを通じれば、言葉が通じなくてもできるものだと知りました。

次に、「日本の常識、世界の非常識」です。

日本では、目上の人に対して、自分の意見を言うことは失礼だとか、開会式の席で自分をアピールするのは、非常識と言われています。しかし、他の国は違いました。

ある人が僕にこんな話をしてくれました。「言われた様にすべてをやることは、犬でもできるだろう。大切な事は、自分の考えを言って、自分をアピールできる人間こそが一番立派な人間ではないだろうか」と。

僕は、初めその意味がわかりませんでした。しかし、開会式の時、隣に座った女の子が、「この場所で自分や自分の国をアピールしないと意味がない。」と言いました。この時に日本には、日本の常識がある。しかし、よその



国から見ると非常識になることを知りました。

このことを通じて、自分が今、何かやらなくてはいけない事があることを知ったような気がします。

僕は、今回この大会に参加しなかったら、きっといつまでも、わからなかったと思います。

次に、日本と韓国の関係です。戦争で韓国を力で併合し、大変迷惑をかけました。戦争によって失うものは、数知れません。特に、人の心までも奪ってしまいます。

世界の人と共に手をたずさえて、争いのない、平和な世界を築いていかなければと心に強く感じました。

最後に学んだ事は、別れでした。

「別れの涙は三つある。一つは、同じ飯を食った仲間との別れ、一つは、愛し合った人との別れ、そして、一緒に笑い、涙を流して、喜び、悲しんだ友との別れだ。」と、スコットランドの友が話してくれました。

僕は、今回の旅で多くの友を作り、助け合ってきたと思います。

別れのバスがきた時、すべての友が泣きました。三つの涙をすべて満たしての涙だったと思います。

僕は、この旅で学んだことを生かして、これからも生きていかなければいけないと思いました。

いつまでも、友達のこと、そして、この旅で学んだ事を忘れないと思います。

ハワイを旅して

五本松小学校 5年 鈴木 武宏

日本航空076便にて、夜7時に日本を出発しました。約7時間の飛行機の旅でした。雲の上を飛んで朝日がのぼるころ、窓の外を見るとすごく美しく感動しました。

ホノルルについた時は、朝で大へんぬむかった。ホノルル空港におりると、気温はもっと高い思ったが、意外に涼しく感じました。湿度が低くカラッとしていて、日本の初夏のような気候でした。空港は成田より小さく外に出るとハワイの女の人に花のレイを首にかけてもらいました。お父さんは、きれいな女の人から、キスをしてもらい一人でうれしがっていました。僕の泊まったヒルトンホテルは、空港からバスで20分の所で、とても大きな立派なホテルで、外国人もたくさんいました。

4泊6日の旅行で印象に残った所は、6ヶ所です。

1日目に行ったハナウマベイは、ハワイで、とう明度



ナンバーワンの海岸で、泳いでいる魚が上から見えてしまうほど水がすんでいました。日本の海は、観光客が海をよごしてしまうのでとても残念です。

次に、シーライフパークは、ウミガメ、アザラシ、数百種の魚、ペンギン、イルカのショーが楽しかったです。イルカがとてもすごい演技を見せてくれました。

2日目は、メネフネアイランドに行き、船で島までわたり遊びました。泳いだり、ビーチバレーをしたり、つな引きをしたりして約2時間ぐらい楽しんで帰りました。

その日の午後は、ワイメア滝公園に行き、高さ15メートルの滝の上からの飛びこみショーを見ました。僕は高い所が苦手なので、とてもできないと思いました。

3日目は、ポリネシア文化センターを見学しました。サモア人の住んでいた家や生活様式をそのまま残している場所で木と木をこすり合わせて火を起こしたり、ココナツミルクを作る所を見ました。原始人は、昔きつとこういうふうに毎日くらしていたのかなと思いました。

最後の日は、船で沖まで行って、せん水かんに乗りました。生まれて初めて海の中を見て感げきしました。日本には見られない熱帯魚がたくさん泳いでいて、僕に、話しかけるようでとてもかわいらしいと思いました。

ワイキキビーチは遠浅で、白い砂の海岸がホテルの前からダイヤモンドヘッドまで広がっていました。1日中泳いでいたので、真黒に日焼けしてしまいました。この旅行で一番うれしかったことは、泳ぎがとてもうまくなったことです。海は波が静かで、沖の方まで行くと、さんごしょうがあり、サーフィンやウィンドサーフィンをしているひとが、いっぱい目につきました。

おみやげは、キーホルダー、かべかけを買いました。おどろいたのは、日本のカップラーメンが日本円で500円、日本の雑誌が1000円もしていたことです。物のねだんは日本と比べて高いと思いました。

ホノルルの町は日本人、アメリカ人と、中国人の観光客が多く、家族連れが目立ちました。働いている人は、フィリピン人、サモア人がほとんどで日本人はホテルにもいませんでした。市内は、電車はなくバスかタクシーしか交通機関がなく、とても不便でした。

食べ物、毎日ステーキばかりで日本食がこいしくなりました。

言葉は、英語でお父さんは外国人とペラペラ話をしていました。「アロハ」は、こんにちは、さようなら、好きです、きらいですというたくさんの意味をもつ言葉です。日本語には、こういう1つの言葉でいろいろな意味をもつ言葉は見当らないので、本当に不思議な言葉だと思いました。ハワイの人は、必ず「アロハ」と言ってわらってくれたのがとてもやさしく感じられました。

そして、子どもにも、大人にも、年よりの人にも親切にしてくれたのが印象的でした。

僕も、英語を一生けん命勉強し、外国の人とも話をしたいし、仲良くしていきたいと思います。

私達にも出来る国際交流の橋渡し ——家庭に新風を——

S・K

21世紀に向けての国際交流は、国レベルから地方レベルへ、東京一極型から日本各地から直接世界に結びつく多極型が一段と加速することになろう。

人、物、金、情報、文化が互いに交流し、密接につながる現在の国際社会の中にあっては、広い国民外交の展開が必要であり、その意味から地域間交流、住民交流と言う地域レベルの国際交流の役割が益々重要性を増すことになる。その主役となるべき担い手はやはり住民であり、住民一人ひとりが地域の問題を国際的視野から捉え異なった文化を持つ人々と交流し、積み重ね相互理解を深めていく住民全員参加の草の根交流が大事である。

最近では、海外に出掛ける日本人の数が急増している。しかし、いぜんとして自分中心主義であって、国際交流とはほど遠いことをしている様に思える。外国の人々に日本のことを知ってもらい、日本の生活文化などを享受し、味わってもらふ努力に欠けているように思える。

それでは、私達が普段着のままで国際交流の橋渡しの手伝いが出来るだろうか？……答えはYESである。

鎌ヶ谷市国際交流協会の事業の中に①ホームステイ制度②ホームビジット制度があり、その手助けをする「ホストファミリー登録制度」がある。

外国の子弟と自らの生活様式を一日または一定期間共有し、成長過程にある若者への貢献という魅力あるテーマを持った制度である。

異なった文化との交流は、自分と違う人の存在に気付く刺激を受け自分のライフスタイル、価値観を見なおし、国境を越えて友情の輪を広げる営みである。受け入れた子供の行動は、しばしば理解が及ばず戸惑う日々の連続かもしれない。質問を受けて政治、社会、文化に対する認識のあいまいさにオロオロすることも体験するだろう。そんな時ホストファミリーも受け入れの子供同様カルチャーショックに見舞われる。これも日本の再発見、自文化を見直す機会と前向きに捉えたい。

ホームステイが終って見ると、自分（家族）の中に大きな変化を見出し、おやっと思ったり、外国の出来ごとに関心を向け始めるなど、家庭の中に「新しい風」がさわやかに吹き込み、自分の世界が広がること請け合いである。風は座視して吹かず、積極的に行動することによって現れるもの。

家庭の条件が整えば「ホストファミリー」に名乗りを挙げ国際交流の橋渡しの一翼を担ってみようではありませんか。



恒例、琴の演奏

第4回

KIFA パーティー

1991・11・23 総合福祉保健センター 6 Fにて

出席者数 155名 (内、33名外国の方)

参加国 13ヶ国 (順不同)

韓国・ガーナ・シンガポール・イギリス・アメリカ・中国・ミャンマー・台湾・ブラジル・メキシコ・イラン・オーストラリア・バングラデシュ



ぼくのウィフと子どもを紹介します。



フルート演奏でオープニング



「どお、おいしい?」「外国人には、この味どうかな?」



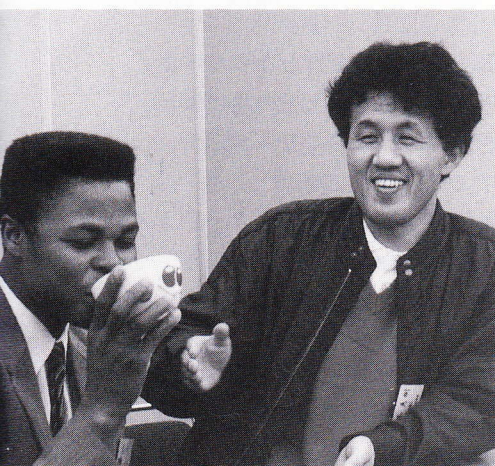
「私の英語が通じた！」



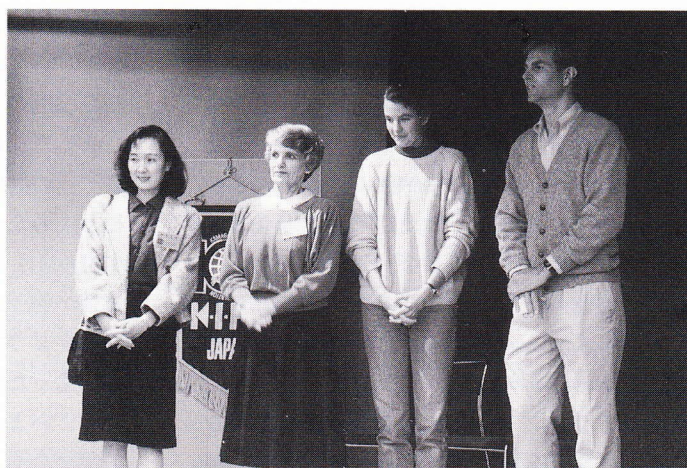
オーストラリア、イギリスからのお客さま。



けん玉がすっかりお気に入り



慣れない手つきで、「Very Good!」



語学研修でおなじみの先生方もかけつけて……

国際交流協会パーティに出席して思うこと

上田 善弘

私が妻とともに、KIFAの会員になったのは3年前、前回は家族で英国に滞在していたため恒例のKIFAのパーティに出られなかったが、このパーティに出席するのは、今回で2度目である。

今回は新築された建物で、この会のパーティにふさわしい会場であった。第一印象として、前回より参加者の国の範囲が広がったように思われた。特定の国に偏らず、じつに様々な国の人の顔を拝見できたように思う。私も大学の学生を2名連れて来た。1名はミャンマーから、他はメキシコからである。ミャンマーからの女子学生は来日してもう5年近くになる。今春には修士課程を終了して、日本の企業に就職する予定である。

最近、日本の大学へ学びに来る外国人の数は非常に増えてきた。私どもの大学(千葉大学)でも400名余になり、対応しきれずに昨年から留学生課が新設された。我が研究室だけでも9名の留学生がおり、上記以外の国では中国、台湾、韓国からである。これらの学生も最近では卒業後、本国へ帰らず日本で職につく者が増えてきた。本国の政情、経済が不安なためという場合が多いようである。また、日本の物質的な豊かさが忘れられず、帰国したくないという場合もあるようである。さらに、留学生を受け入れてくれる企業も増えてきて、留学生用の求人情報誌まである。しかし、これらの留学生が日本の企業社会でどれだけ適応していけるか私は疑問に思っている。日本の企業では経済効率だけが優先され、個人やその家族のことは二の次である。そのため、「過労死」や「社畜」などという言葉まである。豊かさが物質的豊かさだけにおきかえられ、本当の心の豊かさは忘れられてしまっている。こんな日本社会で彼らの国の生活習慣・信条はなかなか通じないものである。

メキシコからの留学生は昨年日本に来たばかりなので、ホームステイをしたいと自己紹介の際に訴えた。ホームステイをしたいのはもっと日本語を流ちょうに話せるようになりたいためである。自由に会話ができないと本当の日本の先端技術・情報を習得できないのである。しかし、実際には受け入れたい日本の家が狭い、娘がいるから(留学生本人が男性であるため)長期間は無理(本人の希望は1年間)などの理由でなかなか難しかった。

これらの留学生も含め、最近目立って増えてきた来日外国人との間で日本人がこの先どのように共存していくかが大きな課題である。あちこちで聞かれるトラブルにはお互いを理解できないことによるものが多いのではないだろうか。日本は回りを海に囲まれた島国であり、他人種と生活を共にする経験に乏しかったためか、日本人

はたいへん閉鎖的であり積極的に外国人とつき合おうとはしない、そして、外国人からみると日本人はたいへん特異な文化、生活習慣をもった人種に見えるようである。そのため、海外から来日している人にとって日本人はたいへん理解しづらいようである。誤解をとくためにも、こんなところを改め、お互いを理解するようにし、広くいろいろな人とつき合わなければ、将来たいへんなことになるような気がしてならない。

同じような島国でありながら英国はじつにうまくいろんな人種が共存しているように感じた。ロンドンでは60~70%(?)が外国人だという。やがて東京でもそのような日がくるのではないかという予感がする。最近の日本人はいわゆる3K職場をきらい、ホワイトカラーの仕事につきたがる傾向がある。当然、ブルーカラーに就業する人口が減り、その人手を外国人にもとめることになる。そのようにして、一極集中の選んだ東京に外国人が集まってくるのではないだろうか。そのような外国人とも日本人と同じようにつき合いたいものである。

私たちが英国滞在中にたいへん感心したことがある。ひとつは医療の問題である。私どものような短期間滞在した者に対しても英国人と同じように医療サービスが受けられたことである。英国のナショナルヘルスサービスの中にちゃんと組み入れられ、医療費はすべて無料であった。その他、私どもは申請しなかったが、児童手当もちゃんと外国人にもでるそうである。

このように、真に日本人が国際的になるためにはお互いをよく理解しあい、外国人でも日本人と同じ制度のなかで生活できるようにすべきではないだろうか。あまりパーティとは関係ない話になってしまったが、以上のようなことを改めて感じた次第である。

KIFAの一員として

加藤 康成

市の広報で知った「KIFA」の会員となったのは、ほんの数ヶ月前、2年近くの生活で鎌ヶ谷の水に慣れ、地元と自分のかかわりを、何か具体的にもってみたい、そんな思いをいだいた中での入会でした。

そして、最初に大きな行事である「KIFA PARTY」の開催の手伝いをする機会にめぐまれました。やると決めたからには、準備段階から、積極的にと考え取り組みました。初めてお会いする会員の方との打合せ、全員が何とか成功させようと意見を述べあい、会合のたびに高まっていく意識、仕事で得られる喜びとは、又、一味違った感触を得る事ができました。

いよいよ「KIFA PARTY」当日、前日まで今年は、たくさんの人が来てくださるのかどうか、会員の方、皆気をもまれた事と思います。私も、妻と二人でと

にかく会う人ごとに声をかけました。父親参観日、街でゆき会う外国の方……。

PARTYが始まれば、私の役割もおしまい、あとは参加者が、楽しく交流を深めてもらえば満足、長いようで短い、PARTYも無事終わりました。

これらの交流会が、単なるお祭り騒ぎで終わらせるのではなく、これがスタート。会場で知りあった方々同志が、又、別の形で交流を深める事が本当に大切な交流の一步だと思います。

そんな機会がもっと多くなるように、お手伝いをする事がないものか、夢はふくらみます。

その中で、言葉を学ぶだけでなく、知り合った方の外国が、どんな歴史文化を持った国なのか、日本の姿を正しく知って頂くのに、どんな事をお話ししたら良いのか、そんな事を自分の生活時間に組み込んでいきたいと感じています。

襖に穴があき、ファミコンで遊ぶ子供がおり、畳の上にはベットがある。そんな生活をみてもらう事も草の根交流かなと納得、納得。

多くの方が、鎌ヶ谷市国際交流協会に参加して下さる事を祈ってやみません。

KIFA PARTY に出席して

相原 恵子

11月23日、各国の人々に新築された総合福祉保健センターの6階に集まっていただきました。今日は、第4回目のKIFA PARTYです。

梨のさきやきの宣伝と市制20周年を祝う市長の挨拶から、ワインの乾杯でパーティが始まりました。口あたりがよくて、「いくらでもはいりそうだな。」という参加者の声も聞こえてきました。すぐに、各テーブルで自己紹介をしながら、和やかな雰囲気です話に花が咲いています。

一段落したところで、出身国毎の紹介が始まりました。ガーナ、ミャンマー、オーストラリア、シンガポール、中国、韓国、イギリス、アメリカ、イラン、ブラジルといろいろな国の方がみえました。皆さんとても日本語が上手です。どうしてあのようなきれいな日本語が話されるのでしょうか。学生、英会話の先生、鎌ヶ谷に住んで長い方、いろいろな方がいらっしゃいます。

途中、バックミュージックもはいり、また、琴の演奏も行われました。皆さん、テーブルからテーブルへ移られ、熱心にお話されていました。

その後、ゲームが行われました。童心にかえって、老いも若きもジャンケンゲーム、ウルトラクイズ、ビンゴゲームに興じました。司会者の年齢あては、むつかしかったですね。

フロアの後方では、お茶席も設けました。お味はいか

がだったでしょう。「私は、着物が大好きです。」という外国の方もいらっしゃいました。

あっという間に閉会の時刻です。外国の方も、日本の方も積極的に話しかけられ、サブタイトルの「ハートで語り合おう」そのままです。私自身は、もう少し積極的に出ればよかったなど。でも次回は、もっと気楽に声かけられると思います。

貴方も来年度は参加してみませんか。

KIFA パーティー

会話— conversation —会話— conversation —会話

「着物姿がとっても素敵。この着物、どうしたんですか」
「友達が着せてくれたんです。私、ずっと憧れていたんですよ。日本の着物に」(オーストラリアからの女性と)

「世界中いろんな国を回っているけど、日本はとっても気に入った。ワーキングビザが取れたら1年ぐらい居たいと思っているんだ」

「あら、学生さんでしょ？お金はお母さんから？ 優雅ね。それで、何を専攻しているの」

「生物学と経済学さ」 (ガーナからの男性と)

「御主人は日本人なんですね。日本はどうですか？」

「ロス、ハワイ、シンガポール、日本の間を行ったり来たりの生活。日本はやっぱり狭いと感じるわね」

(シンガポール女性と)

「日本で英語を教えて1年、生活はどうですか？」

「物価が高くて大変ね。自分の国でお勤めしてた時の方がお給料も良かったし、不況で仕事がないから仕方ないわ。あと1年ここで頑張るつもり」

「日本の男性はどう？」

「日本の女の子って積極的で、白人男性はけっこう楽しんでる人が多いけど、女性は孤独よ。日本人の男性は外国人女性はあまり好きじゃないと思うわ」

「そんな事ないわ。あなたみたいに可愛い人と話してみたい、友達になりたいって思う人は沢山いるはずよ。ただ、最近の日本の男の子は恥ずかしがり屋なのよ。特に英会話に自信がないと劣等感があって話しかけられないのよ」

(イギリス人女性と)

「日本に来て8年、日本人の主人との間に二人の子がいます。この子は2才半、あと一人は7ヶ月。日本は安全なので住み良いですね。日本語を話せますけど、読むのは難しくて大変」

(アメリカ人女性)

一泊ホームステイ



去る、12月14日、15日（土、日）に、明治大学の留学生（中国籍1名、台湾籍2名、韓国籍1名）を招き、一泊のホームステイを行いました。

14日は、午後3時過ぎから市役所5階において、ティーパーティを開催し、和気藹藹の中、相互理解、友好親善を深めました。留学生の皆さんは、いずれも大変日本語が達者で驚嘆しました。午後5時過ぎ終了し、それぞれホームステイ先へ分散しました。

翌15日は、佐倉の国立歴史民族博物館を見学するもの、また、ホストファミリーと共に楽しむもの、それぞれ、1日を過ごされました。

自治会連合協議会の自治会長会に 国際交流協会研修部が協力



去る2月15日（土）鎌ケ谷市自治会連合協議会自治会長会が総合福祉保健センター・6階大ホールにて盛大に開催されました。

午後2時からの外国人によるパネルディスカッションには、国際交流協会の研修部が講師依頼と当日の通訳に積極的に協力し、参加者からも好評で、成功裡に終わりました。

講師は、イギリス出身のスーザン・大友、アメリカ出身のジャネット・平野、ミャンマー出身のウー・ティン・チイ、メキシコ出身のフィデル・マザの皆さんで、「外国と日本での日常的な環境問題との関わりについて」のテーマで開催されました。

協会の行事予定のお知らせ

☆ 講演会の開催

語学研修講座の閉講式の終了後に、国際交流講演会を開催します。TBSテレビの関口宏のサンデーモーニング出演でお馴染みのペマ・ギャルポ氏を講師に迎え、「私のチベット」というテーマでお話していただきます。

日時 3月15日（日） 午後2時～3時半

場所 鎌ケ谷市総合福祉保健センター 6F大会議室

☆ 総会の開催

5月16日（土）に鎌ケ谷市総合福祉保健センター 6F大会議室で、当協会の総会を開催します。詳細は未定です。

会員資格更新手続きのお願い

会員の皆様には、今年度、各種行事への積極的なご協力、ご参加をいただき誠にありがとうございました。

1992年度の事業につきましても、皆様に満足いただけますよう、各部会において企画検討中です。

さて、1992年度の会員資格手続きにつきましては、3月中旬頃に会員名簿とともに、お願いの詳細な印刷物を送付いたします。

よろしく、更新手続きの程、お願い申し上げます。

訃 報

KIFA交流部会長として、設立以来ご活躍をいただいております藤谷淳子様が、1月14日逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

☆ 月日の経過は早いもので、今年度最終号の編集も終りほっと一息。顧みれば、小人数でのスタートで不安と苦勞の連続、ご協力いただきました皆様に感謝、感謝

☆ 地域活性化のための「国際化」が話題となっていますが、「国際化」とは何か、「何のため」の国際化か、国際化に「どう対応」したらよいか、地域社会の活性化に少しでも役立てばと、「新しい風」を特別企画しましたが、ご感想はいかがでしょうか。

☆ 本紙に対する、ご意見、ご希望がありましたら、是非、お聞かせください。多くの会員の皆様の入部もお待ちしております。